



五濁の世を生きる

弘教寺住職 中山英昭

時代劇などで、「世(よ)も末(すえ)じゃ」という言葉を耳にすることがある。仏教の末法の世ということである。お釈迦さまは、紀元前五世紀におられた方である。入滅()以後五百年を正法の世、さらにその後千年を像法の世とし、千五百年を過ぎると、末法の世が到来し、一万年続くというのである。

平安末期、当時の日本でも末法の世に入るといふことと、飢餓、疫病、戦乱の時代背景も重なり、民衆は恐れおののいた。

末法の時代になると、五濁の悪世になると言われ、阿弥陀経の終わりに、劫濁(こうじょく)、見濁(けんじょく)、煩惱濁(ぼんのうじょく)、衆生濁(しゅじょうじょく)、命濁(みょうじょく)と五濁が示されている。

劫濁とは、社会的、時代的濁りで、飢餓、疫病、戦争がおこるといふ。劫濁によって、残り四つの濁りがもたらされるといふ。見濁は、誤まった思想、見解がはびこること、煩惱濁は、貪欲(とんよく)がつかつかつ、



第十三号

発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-1 浄土真宗本願寺派弘教寺 寺報編集部 電話0270(74)0573

瞋恚(しんに「いらいら」、愚痴(ぐち)「ぶつぶつ)の煩惱がはびこること。衆生濁は、身心ともに資質が低下していくということであり、命濁は寿命が段々短くなるといふのである。

最近の世界や日本の状況を見回した時、まさに、五濁の世の姿が描きだされているように思える。メキシコから始まった新型インフルエンザは、世界中にパンニックを引き起こした。幸い弱毒性であり、タミフル等の薬が、有効とのことで、騒ぎが下火になっているが、油断は禁物である。

温暖化による異常気象(水害、干ばつ)により、「CO2」の削減は、深刻且つ急速な、世界各国の課題となっている。

国内に目を向ければ、振り込めサギ、コンビニ強盗、産地偽装等、我が利益のために、人をだまし、おどしてまでも、自分の欲求を満たす世相。「誰れでも良かった。」「殺してみたかった。」という殺人にいたっては、まさに世末の様相ではないかと思うのである。



スポーツ報知抜粋

戦後六十数年、日本では、仏教への信仰的関心は希薄になり、来世を願うよりは、「生きて何んぼ」といふ、現世を物質的にどう豊かに生きるかに重点が置かれ、あれもこれもという欲望は、他者を顧(かえり)みることもなく、我身が豊かであつたらと願うことだけしか考えなくなつた。

ヒマラヤの小国ブータンは、仏教国である。テレビ取材で、寺に参拝している女性に尋ねる場面があつた。あなたは何を仏様にお祈りしましたかの問いに、「世界中の人々が幸せになれますように」と答えた。寺社を詣でる日本人との祈りの内容の違いに驚いた。

経済的状況が厳しい時代だからこそ、心の豊かさを求めていくことが、大切ではないだろうか。且つて物のない時代に、ともに助けあひながら、心豊かに暮らした時があつた。

歎異抄に、聖人のお言葉「よるずのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにしておは

します」とあるように、五濁の世なればこそ、念仏のみ教えの真実に出遇いける心豊かな社会、環境を築いてゆきたいものである。 称名

注 = おたくなりになる

本願寺御影堂平成大修復を終えて

寛永十三(一六三六)年に創建され、今日まで護持されてきた本願寺御影堂(ごえいどう)の大修復がついに完成しました。平成十一年一月十六日の起工式から十年の歳月をかけて実施されてきました。



「修復」祝賀記念コンサート風景 西本願寺HPより

御影堂はこれまで数度の修復が行われてきました。宗祖の六百回忌・六百五十回忌にもご修復され、前回の七百回忌に際しても内陣のご修復が行われました。この度のような大修復は、文化八(一八一)年の五百五十回忌記念事業(文化の大修

復)以来となります。

平成大修復では、屋根瓦の全面葺(ふ)き替え(十一万五千枚の屋根瓦は約六割を新調)、木工事、壁工事、建具・金具工事をはじめ、内陣余間等の彩色補修極色剥落(はくらく)止め・補彩色、金箔(きんぱく)押し(およそ十万枚の金箔を使用)、彩色障壁(余間壇、

襖等)の補修などの内装・塗装工事も行われました。

とりわけ、「ご真影(しんねい)・親鸞聖人像)が安置されるお厨子(ずし)の金箔の押し直しと須弥壇(しゅみだん)の漆の塗り直しで輝きが蘇りました。

大修復の完成を受け、四月一日にはご真影を阿弥陀堂(総御堂)「そうみどう」からおうつしし、御動座(ごどうざ)法要があり、二日には本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要が営まれ、参拝者で満堂となった御影堂にはお念仏の声が高らかに響きわたりました。



修復後の御影堂内陣 西本願寺HPより

私達弘教寺におきましては、平成十二年十月に「本山参拝と京都「旧蹟の旅」をいたしました。おおいのかかった御影堂の大屋根は瓦が大部分剥がされて、職人さん達はその瓦を一枚一枚大切に扱っていたことが印象に残っています。新しく葺かれる瓦の裏側に記名をして下さるとのこと、それぞれが頼みをいたしました。新しい六万九千枚の瓦の中に自分の名前が書かれたものがあると思えますと、感慨深いものがあります。

その後の御影堂の様子は、NHKテレビなどで何度も放映されていきました。文化財保存修理の専門家による優れた伝統の技に、先進の技法も取り入れられたようです。



屋根瓦の工事中 西本願寺HPより

平成二十三年、二十四年には、修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七十五回大遠忌法要が勤められます。

完成奉告法要に引き続き「御消息発布式(ごしょうそくはつぷしき)」が行われ、大谷光真門主が僧侶や寺族、門信徒にあてたお手紙、「本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要に際してのご消息」をお読みになられ、「御影堂は、親鸞聖人を慕い、浄土真宗の教えに生きる私たちのこころのふるさとであり、宗門の要です。聖人の教えが御影堂とともに末永く受け継がれるように務める決意を新たに、大遠忌の法要を迎えましょう。」と、ご教示されました。

門信徒の皆様さん、ともに「大遠忌」をお迎えし、十年ぶりによみがえった本願寺御影堂を、ご一緒にお参りいたしましょう。

瀬古(釋安徳)

元総代 池田正良氏を偲んで



去る五月八日、八十四歳で、往生された池田正良氏は、四十年近く弘教寺の役員として活躍、文字どおり門信徒の中心的存在でした。茲に謹んで故人を追悼し、哀悼の文を載せていただきました。

小池正一郎

私は昭和二十八年栗豊(株)に入社ですが、その時既に池田さんは、営業部の責任者としてその実力をいかに発揮され、会社の為に頑張っておられました。社長の信頼は厚く仕事に対して、いつも前向きな人でした。趣味はマージャン・将棋。晩年は旅行・写真と多才で、お酒を愛し、今でもその笑顔が目には浮かびます。また、OB会で年二回行く旅行計画は自身で立て、毎回大変楽しみにしておられました。

合掌

田中鐵郎

戦後、伊勢崎銘仙全盛期に、池田さんは伊勢崎一番の買継商「栗豊」の社長より偉い「池田天皇」とまで云われた実力者で、雲上人(びと)でした。池田さんの祖父は越後、私の祖父は越前出身です。戦中戦後弘教寺の世話人で、池田さんと私は共に二代目として、平成十八年春まで、微力ながら総代の役を勤めさせていただいた仏縁を感謝しています。

池田さん、お浄土で、又戦争体験談に華を咲かせましょ。

合掌

五月十七日と十九日にそれぞれ総会が行われました。本年度の主な行事は次の通りです。

仏壮・仏婦合同研修旅行

十月二十五日(日)～二十六日(月) 新潟方面(恵信尼廟・国府別院等ご旧蹟巡り)

仏壮・仏婦合同観劇

十一月二十五日(水)予定 「法然と親鸞」前進座・青山劇場にて

壮年会・婦人会からのお知らせ！！



参加者30～40名程度

仏壮・仏婦合同報恩講

十二月五日(土) 「クラシック・コンサート」 瀬越憲先生・他2名



弘教寺におけるコンサート風景

群馬組大遠忌お待ち受け法要

平成二十二年三月六日(土)青木新門師講演会 県民会館にて 映画「おくりびと」の原作者

仏教の豆知識(6)

念仏・ねんぶつ

一般的に念仏といえば「南無阿弥陀仏」(なもあみだぶつ)と称(とな)えることです。それは「ナンマンダブ」「ナマンダブツ」でも同じです。「南無阿弥陀仏」を称えることは、阿弥陀仏の名を称えるという意味で、これを称名(しょうみやう)「称名念仏」といいます。

浄土真宗では、阿弥陀仏と私たちの関係を考えると、阿弥陀さまを「親」に、私たちを「子」に譬(たと)えることがあります。親は子どもが遠く離れたところにいたとしても、いつも子どものことを心配しています。また、親は子どもからどうか私を育てて下さいと頼まれなくても、子育てをしています。称名は、このような親子の関係と同じようなものです。

阿弥陀さまは常に私たちを心配し、「必ず救う私にまかせなさい」とよびかけておられます。そのよび声は、私たちが阿弥陀さまに対して、どうか助けてくださいとお願いしなくても働きかけてくださるものです。つまり、称名念仏は阿弥陀さまのはたらきに対する、「おまかせします」という返事なのです。浄土真宗では、南無阿弥陀仏という



「子どもの集い」風景

名号が、人の心に受け止められて信心となり、その信心が口にあらわれて念仏となると示されていますから、「称名念仏」は最善、最高の法なのです。 称名

吉田(釋願船)

子どもの集い・春・第7回

今回は、住職のご法話に代えて「何でも聞いてみよう」と質問を受けました。寺の本堂が、当時の養蚕農家の建物だったこと、親鸞聖人の絵像のお厨子のことなど、いろいろ知ることができました。

「篠竹でつぼう作り」

雨模様のテントの下、鋸で篠竹を筒と持ち手に切り分けれます。怪我のないよう慎重に結構うまく作業でき、スタッフの方々も昔取った杵柄(きねづか)とばかり張り切っていました。筒に濡らした新聞紙を詰めて、空気圧で飛ばします。まず、竹やぶに向かって何度も練習です。初めは、玉がほろりと落ちてなかなかコツがつかめません。やっと何人が飛ばせるようになったところで、競争の時間。玉を込め準備できた子から打ちました。五歳で十四羽飛ばせたので、皆びっくり！最長記録は、



しめた「篠竹でつぼう作り」でした。

中学二年生の十八歳「パンツ！」甲高い音と飛ばす角度がコツでした。夢中になって子どもも大人も楽しんでました。

年6回に！会員募集中！

平成七年夏から始めた「子どもの集い」は、平成十五年から春も含め年2回になり、イベント形式で楽しく開催されてきました。今年から、年6回会員制で行うことにしました。



夏は、「子ども祭り」として、今までどおりお祭りひろばを中心に大勢集まってる開催です。他5回の内容は、

住職のお話と「作って遊ぼう」をテーマにおもちゃ作り、ゲーム、昔の遊び、作って食べるなどです。回数が増え継続的に遊んだり季節の遊びを取り入れたりできます。自分の手でおもちゃも食べ物も元から作る、年齢のちがう仲間と関わって力を合わせる、祖父母世代のスタッフと交流するなどして、深い人間性を育てたいと思います。何より、命の尊さに気付き、人やものへの感謝の心に目覚める機会として欲しいと思います。会員を募集中です。弘教寺へお問い合わせください。(坊守)

『今年度の予定』

「作って遊ぼう」

- 五月六日 篠竹でつぼう作り(実施済)
- 七月四日 紙ひこうき作り(実施済)
- 十月三日、十一月十九日、平成二十二年二月六日、土曜日の午前九時半～十一時半 「子ども祭り」
- 八月二十二日(土)午後一時～四時

行事予定 (平成21年8月～11月)

月別	弘教寺の行事予定	教区・群馬組の行事予定
8月	5日 伊香保ハイソフェイバル	
	13日～16日 お盆	
	18日 婦人会例会	
	22日 子ども祭り	
9月	6日 壮年会例会	
	8日 秋祭イブニング	12～13日 教区仏壮理事一泊研修
	13日 前坊守三回忌法要	18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	17日 婦人会例会	20～26日 秋彼岸
10月	3日 子ども集い	5日 ビバーラ(若宮苑彼岸会法要)
	6日 第10回「秋祭イブニング」記念大会	
	20日 婦人会例会	
	25～26日 仏壮・仏婦合同研修旅行	
11月		11～16日 築地本願寺報恩講
	20日 婦人会例会	(13日: 築地仏婦報恩講)
	25日 「法然と親鸞」観劇	

編集後記

いかがですか、紙面の変わりを感じますか？これまでの編集は優れた機能・手法のある「エクスセル」でした。しかし、写真と文章の組合せ、移動や、文章の変更等に苦慮してありました。編集会議で新しい「新聞編集ソフト」を紹介されて挑戦してみました。まだ、説明書を片手に離さずの作業ですが、速く容易で正確にと、編集委員一同努めております。ご意見などをお願いできれば有難いです。(H・M)